

<松本公民館「雪の結晶観察会」開催： 令和5年3月4日（土）、10時～12時15分>

昨日、「雪の結晶観察会」を福井市松本公民館との共催で、午前10時から12時15分まで実施しました。高学年児童生徒6人に加えて保護者1名が参加されました。スライドで雪の結晶観察の歴史などを説明した後、3班に分かれて手作りミニ顕微鏡の使い方を習得し、実際に人工雪生成実験に挑戦しました。雪がないので、かき氷を作りそれに塩を混ぜてマイナス20度の冷却材を作り容器に入れます。その上にアクリルの基板を乗せ、容器の蓋の綿棒に少しずつ水を送ります。30分後、蓋を開けるとピカピカと基板の表面が光っています。ミニ顕微鏡で人工雪を観察し、また市販の実体顕微鏡でも確認しました。音楽付きの雪のスライドショーも見ることができ参加者は大変喜んでいました。



スタッフはふくい科学学園から4名、
公民館から2名



ミニ顕微鏡で印刷のドットを観察



かき氷を作る児童



注射器で綿棒に水を送る児童



人工雪生成容器の蓋をとると基板の表面が結晶で光っている



人工雪をミニ顕微鏡で観察



市販の実体顕微鏡で人工雪を観察



音楽つきで雪のスライドショーを
楽しむ

<参加者のアンケートの一部より>

- ・今日は親子で参加して、とても学びになりました。
身近な材料と工夫で、実験ができることにも とても 感動しました。
雪は北陸の人にとってやっかいなものになってしまいましたが、
こうやって眺めると考えさせられました。